

# ZAIDAN NEWS LETTER

APR/2013

VOL.18

# HITACHI

Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション (米国)

## 理事長交代・新体制発足

### 日立歴代トップの思い

日立製作所は小平創業社長以来、百年にわたり、“事業の目的は単に利益をあげるのではなく、社会にどう貢献していくか”が最も大切な経営理念として歴代のトップに引き継がれてまいりました。財団事業の運営もその延長線上にあります。ここに歴代トップが自ら語られた志や思いを寸言として収録しました。

#### 小平浪平 創業社長

社会の仕事と云ふものは、決して唯単なる金儲けばかりやって居るのではないと云ふことは能く皆さんの頭に入れて載きたいのであります。此一つを申上げて置きましたら、日立精神と云ふものはどういふ風に醸成されて居るかと思ふことは能くお分かりになるだらうと思ふのであります。

昭和10年「新入社員に対する訓示」より

#### 倉田主税 第二代社長

「日立での50年をふりかえてみると、自分が取り組んできたものは、科学技術の振興という以外にない。かなりの分野で欧米に迫ってはいるものの、たとえば電子工学のごときは米国に大きく水をあけられている。日本が工業国として立つ以上、われわれはその遅れを取り戻す責任がある。」

昭和44年7月日本経済新聞に連載「私の履歴書」より

#### 駒井健一郎 第三代社長

日立製作所の創業社長小平浪平翁は、「仕事は利益追求のみを考えるよりも先ず第一に社会のためにしなければならない」という考えを持っておられました。もちろん、会社は事業を継続し発展させねばならず、利益を上げなくてはやってはいけません。このような小平翁の経営理念により、当社には奉仕の精神によって仕事をする人がたくさんおりました。ところが、会社の歴史も長くなるとともに本来の事業以外にも財団をつくって社会にご恩返しすることを考えるようになりました。

昭和53年「私と幼児教育」(「いしずえ」15号より)

#### 吉山博吉 第四代社長

私は、それらの社会問題を私達一人一人が自分の問題として捉え、率先して解決に取り組むべきだと信じています。そうすれば、我々は今日の問題を克服し、全ての人々のためにより良い社会を実現することができるのです。

日立ファウンデーション20周年記念祝辞より

#### 三田勝茂 第五代社長

日立ファウンデーション設立の発表を、私はワシントンに出向いて行った。日米の経済摩擦をさけるためかと質問があったから、私は「そうじゃない。摩擦は一過性のものだが、日立ファウンデーションの仕事は、これからずっと長く続けていくものです。」と答えた。

平成21年6月「わが人生」(三田勝茂著)より

#### 金井務 第六代社長

社会貢献とは基本的に会社の業績に関係なく世界の中で生きていくために必要な事業の一つです。日立はそれをしなければならないし、それを出来る会社だと思っています。財団を設立した時にどういう気持ちでそれを始めたのか、続けて来たのかという理念を大切にしてほしいと思います。

平成21年10月 財団ニュースレター 8号 インタビューより

# 財団新理事長のご挨拶



小平記念  
日立教育  
振興財団

## 地域における教育、文化の振興をめざし、明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って

当財団は、茨城県を中心とした地域における教育振興と、家庭教育の振興事業を通して広く社会の発展に寄与することをめざしています。私はこれまで茨城県での勤務が長く、当財団の事業の一つである作文コンクールに関心を持ち、小中学生の皆さんの熱意ある文章に感動しておりました。今年はその表彰式会場に出向き、受賞者の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。また、子育て支援施設の「日立家庭教育センター（茨城県日立市）」と「日立家庭教育研究所（神奈川県横浜市）」の行事にも参加し、保護者の皆様の声をお聞きして家庭教育のあり方を私自身も学び、子どもたちの健全育成を支援してまいりたいと思います。

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団  
理事長 田中 幸二

株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役副社長

株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役副社長

倉田記念  
日立科学  
技術財団

## 未来の扉を開く、チャレンジングな研究の発展を願って

このたび、永年にわたり財団の発展に尽力された熊谷理事長のあとを引き継ぎ、理事長をお引き受けすることになりました。私は、日立製作所に入社以来、一貫して研究開発業務に携わっており、大学、国の研究機関の先生方には大変お世話になってまいりました。先生方の基礎研究のご努力があればこそ企業の研究開発が成り立っていることに心から感謝しており、基礎科学の重要性を強く認識しております。当財団は、創設者倉田主税の「世界に通

用する自主技術の確立」という設立の理念を継承し、若手研究者のユニークな基礎科学研究を支援することにより、国際社会に貢献しうる将来の科学技術の発展に微力ながら寄与したいと願い、今後も活動してまいります。

公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団  
理事長 小豆畑 茂

株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役副社長



日立環境財団

## 「みずみずしい緑の地球」を次の世代の人たちへ



私は、日立研究所の研究員として1992年に「火災内脱硝による微粉炭低NO<sub>x</sub>バーナーの開発」というテーマでパブコック日立株式会社の研究者とともに、第19回環境賞 環境庁長官賞、優秀賞を受賞いたしました。この技術は、石炭（微粉炭）の着火直後の燃焼領域を高温かつ燃料過剰とすることにより火炎内のNO<sub>x</sub>を効率よく分解でき、燃焼排ガス中のNO<sub>x</sub>を30～60%低減するというものです。このように、私の研究活動は、環境問題と深くかかわってまいりました。その後、2009年からは、地球環境戦略室長として

日立グループ全体の環境経営に責任を持ってまいります。今後、日立環境財団の理事長として、地球規模の環境問題に対し、正しい認識と理解に基づいた循環型社会、持続可能な社会の構築に向け、財団活動を推進していきたいと考えております。

公益財団法人 日立環境財団  
理事長 小豆畑 茂

株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役副社長

日立国際  
奨学財団

## 東南アジアの将来を担う人材の育成をめざして

私は製品輸出、海外現地法人の経営など一貫して日立の国際事業に携わってまいりました。このほど日立国際奨学財団の理事長としても活動することになり、新たな決意をしております。

アジアの国々との教育・学術・文化交流を促進し、各国の大学教員を支援することを目的として活動する当財団は、人材教育を重視する日立の考え方をCSR活動の面でも設立以来28年間実践しており、日本及びアジアの高等教育界で高い評価を受けています。

インドネシアやベトナムなど当財団が対象とする国々が急速に発展しつつある今、駒井初代理事長はじめ日立の幹部が提唱された財団設立の理念を大切に、時代の変化に合わせたアジアの国々への貢献に努めていきたいと考えております。

公益財団法人 日立国際奨学財団  
理事長 谷垣 勝秀

株式会社 日立製作所 代表執行役 執行役専務



日立  
みらい財団

## 犯罪や非行のない、よりよい社会をつくるために

このたび、長年にわたり財団の発展に尽力された熊谷理事長のあとを引き継ぎ、理事長をお引き受けすることになりました。私は、日立製作所に入社以来、一貫して法務・コミュニケーション業務に携わっており、これまでも財団活動に関しましては、長年、大変お世話になってまいりました。

今日、核家族化や少子高齢化社会の進行など、社会情勢が大きく変化するなかで、地域社会や家庭が担っていた犯罪抑止力や教育力が低下しているともいわれています。当財団が取り組んでいる、犯罪や非行の予防を

行う更生保護活動、犯罪や非行に陥った青少年の立ち直りを助ける矯正活動は、ますます重要になると考えております。

これまでの財団活動に対するご支援に厚く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 日立みらい財団  
理事長 葛岡 利明

株式会社 日立製作所 執行役専務

## About each Foundation

財団名	設立	事業内容
小平記念日立教育振興財団	1971年 7月 9日	家庭教育振興および地域文化振興事業
倉田記念日立科学技術財団	1967年 10月 1日	科学技術の研究に対する助成および振興事業
日立環境財団	1972年 1月31日	環境問題に関する調査研究および環境保全活動の普及・促進事業
日立国際奨学財団	1984年 12月27日	アジア諸国への奨学援助、教育、学術・文化の交流促進
日立みらい財団 (2財団が統合)	1967年 3月29日	青少年の非行・犯罪の予防、福祉向上
	1971年 9月16日	更生保護活動、矯正活動

私たち5つの財団では、今後とも心を新たに、充実した事業を行ってまいりますので、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。